

質問に対する回答について  
工事名) 磐越自動車道 束松トンネル工事

質問事項と回答

番号	質問事項	回答
1	<p>特記仕様書 54 頁          設計図 軽沢橋 111/124          特記仕様書 29-43 工事用仮桟橋工において、施工は特殊支保工の撤去時を除いてすべて 90t 吊クローラクレーン作業であると解釈しますが、一方、軽沢橋設計図(111/124)の仮桟橋施工要領図(参考図)によると、150t、100t、55t クローラクレーンとそれぞれ異なる機種での施工要領図になっております。どちらを正しいものとして理解すればよろしいのでしょうか。ご教示ください。</p>	<p>特記仕様書29-43 工事用仮桟橋工に記載している機種等は構造上の設計条件となります。</p>
2	<p>設計関係図書          設計図 参考図 14、15 頁          爆破掘削、機械掘削に使用するダンプトラックについて、参考図 14、15 頁の施工順序図を確認したところ、20t トラックと記載があります。積算基準に基づいた場合、爆破掘削は 25t トラック、機械掘削は 10t トラックとなります。なお、割掛項目の「ダンプトラック運転費」についても、25t、10t トラックとなっております。本工事では爆破掘削、機械掘削とともに 20t トラックを使用する認識でよろしいでしょうか。</p>	<p>貴社の施工計画に基づきお考えください。</p>

3	<p>設計関係図書 設計図 参考図 14 頁 爆破掘削に使用するトラクタショベルについて、参考図 14 頁の施工順序図を確認したところ、「トラクタショベル 2.3m<sup>3</sup> 級」と記載があります。積算基準に基づいた場合、爆破掘削は「トラクタショベル 3.0m<sup>3</sup> 級」となりますが、本工事では「トラクタショベル 2.3m<sup>3</sup> 級」を使用する認識でよろしいでしょうか。</p>	<p>貴社の施工計画に基づきお考えください。</p>
4	<p>設計関係図書 設計図 トンネル 27、28 頁 「DIIIa (H) -C-RC1-K」、「DIIIa (H) -C-RC2-K」のロックボルトについて、単価数量・閲覧資料は全体本数 8 本のところ、上半：4 本、下半：4 本として数量算出されております。設計図_トンネル 27, 28 頁の支保パターン図を確認したところ、上半：6 本、下半：2 本と見られます。設計図の支保パターン図を正とした場合、単価数量及びサイクルタイムに影響します。設計図と閲覧資料のどちらが正しいかご教示願います。</p>	<p>設計図書に記載の通りとなります。</p>
5	<p>設計関係図書 設計図 附帯工 4、5/29 設計図 5/29 の横断図数量から判断すると、4/29 軽量盛土工 A 材料表の EPS ブロックの EPS (D-20) と EPS (DX-24X) の数量が逆になっているのではないでしょうか。ご確認願います。</p>	<p>設計図 附帯工 4/29 軽量盛土工一般図 軽量盛土工 A 材料表に示す EPS ブロックの数量は、以下の通りとなります。 EPS (DX-24H) : 188.8m<sup>3</sup> EPS (D-20) : 507.5m<sup>3</sup>  交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>

6	<p>設計関係図書 特記仕様書 54、55 頁 「工事用仮桟橋工 設置工 B」にて 行う既設ガードレール撤去につい て、撤去したガードレールの再設 置が見込まれておりますが、仮置 場所の記載がございません。既設 ガードレールの仮置場所の指定は 無い認識でよろしいでしょうか。 仮置場所の指定がある場合は仮置 場所についてご教示願います。</p>	<p>貴社の施工計画に基づきお考えく ださい。</p>
---	--	---------------------------------